

## 鶏ふんによる鶏舎内床暖房 [ 新潟県・新発田市 ]

情報収集官署名：北陸農政局 新発田統計・情報センター  
☎ 0254-27-6757

### [ 取組主体 ]

名 称 (有)大沼ブロイラー

取組の範囲 新発田市

開始年度 平成元年度

### [ 補助事業 ]

交付主体 国

補助事業名 新潟北部第二区域濃密生産団地建設事業

計画名 新潟北部第二区域米倉食鶏施設他工事

## 1 取組目的と概要

### ( 目的 )

飼育しているブロイラーの鶏ふんから熱量を生産し、鶏舎内の床暖房に利用することにより、光熱費の軽減を図る。

### ( 概要 )

(有)大沼ブロイラーでは、平成元年から自家飼育のブロイラーの鶏ふんを焼却炉で燃焼させ、その熱を利用するシステムが稼働している。

同社では、鶏舎敷地内に鶏ふんボイラーを3機設置(1機当たり自己負担額620万円)し、同社の鶏舎から発生する鶏ふんをそのまま自然乾燥させ、ある程度乾燥させた状態で1日平均2.5tをボイラーで燃焼させている。

ボイラーは、井戸水を加熱して温水とし、鶏舎内(2階建て、9棟)に配管したパイプに60 度の温水を巡回させて、全面床暖房化(鶏舎内室温37 度)を図っている。

## 2 取組の効果

### ( 効果 )

これまでの重油のみによる床暖房施設では、年間の燃料費が約1,000万円であったが、鶏ふんボイラーを導入したことにより、約300万円へと削減するとともに、廃棄されていた鶏ふんから熱量を生産し利用することにより、資源の有効利用につながっている。

また、鶏ふんの処理方法では焼却後に灰が10分の1程度残るが、近隣の廃棄物処理場へ運賃のみの負担で処分することができ、処理費用の削減を図ることができた。

## 3 現在の課題と今後の展開方向

### ( 課題 )

新潟県の場合、鶏ふんボイラーも「焼却炉」扱いのため、年1度の検査が必要で、検査料が180万円(1機60万円)かかり、運営経費の負担となっている。(他県では「ボイラー」や「肥料製造機」として認定している例もあり、その場合は検査を必要としない。)

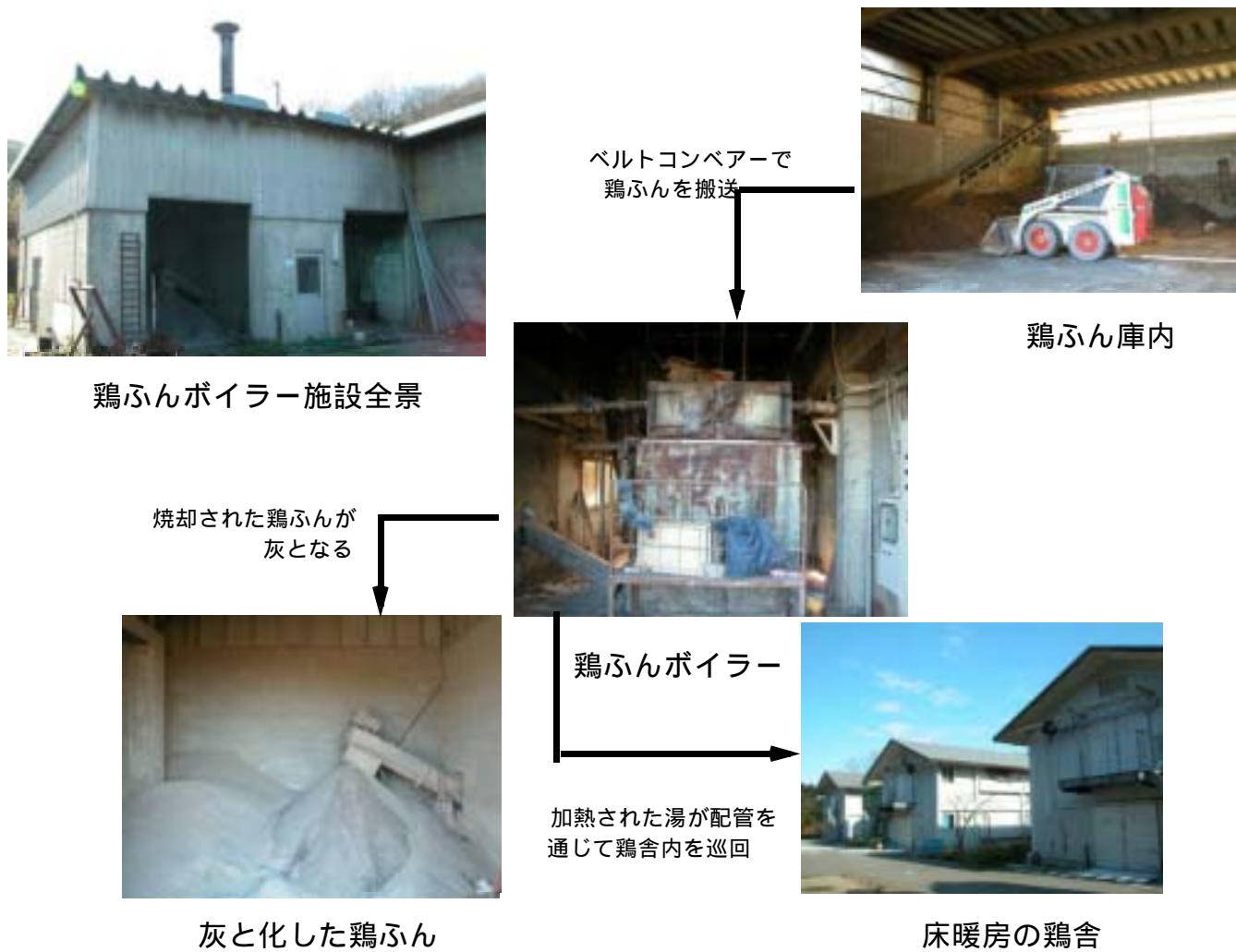
### ( 展開方向 )

今後、このシステムを新潟県においても「ボイラー」として認定してもらえるよう要請し、さらなる経費の削減に努めていきたい。

## 「鶏ふんによる鶏舎内床暖房」の施設概要

施設名称	鶏ふん焼却熱利用型床暖房システム	設置主体	(有)大沼プロイラー
運営主体	(有)大沼プロイラー	施設整備費	18,675 千円
主な設備	鶏糞庫（ベルトコンベア） 鶏糞ボイラー	稼働状況	1日の稼働時間： 24時間 年間の稼働日数： 365日

### 【施設のシステムフロー】



### バイオマスの回収と再利用の流れ

バイオマス名	発生源	距離	発生量	収集・運搬方法	施設処理能力
鶏糞	鶏舎	0.1km	2.5t / 日	自ら車輌で搬入	3.0t / 日
再生バイオマス名	生産量	再生バイオマスの利活用先			
温水	16,500 ℥ / 日	鶏舎内の床暖房			